

# 第12回インテリアプランコンテスト二次選考の結果発表

第12回インテリアプランコンテストの最終選考(二次選考)の結果発表です。

※下記にて作品写真と氏名を、発表しております。

今回は、総応募総数88件の中から、先日の一次審査通過者(10名)による  
模型審査になります。

大変な力作の出品、ありがとうございました。

表彰式は、平成31年2月27日(木)15:00~を予定しております。

式場は、大阪市住吉区苅田の「苅田土地改良記念会館」

受賞者の方には後ほど、正式にご案内させていただきますので、お待ちください。

今回、残念ながら受賞できなかった方の作品は、“[空間工房ブログ](#)”(当社HPにリンク有)にて、  
後日、紹介させていただきますので御参照お願いします。

本年度も、受賞作品の図面・模型を展示しておりますので、ご興味のある方は是非一度ご来店ください。  
学生の方のご見学も大歓迎です。

場 所:本社事務所(大阪市住吉区苅田 5-6-3)

時 間:9:00~18:00

期 間:平成31年2月26日まで



# 最優秀賞

氏名: 島田 涼さん  
作品名: のぼって、おりて。  
学校名: 京都府立大学

## コンセプト

共働きの親と子供と一緒に居られる時間はあまり多くは無い。そんな家族に対してどの部屋にいても、お互いが見えるような家を提案する。

従来の賃貸マンションは直方体の箱を入れるように縦方向に分割されていた。このプランでは空間を縦方向、垂直に分割することで家全体を一つの空間として感じられる。

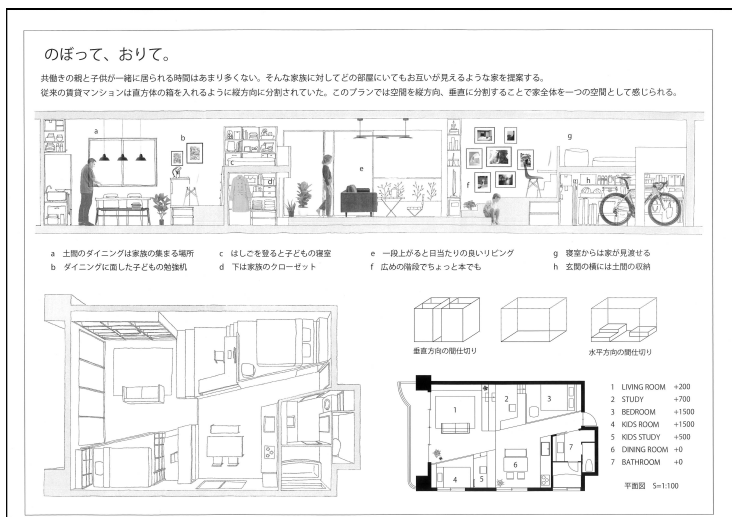
## 西濱審査委員長よりのコメント

空間を壁で区切るのではなく、床の高低差により空間を構成する案です。まずは空間を平面的に斜めに区切り各用途の生活空間の広さを確保する。さらに床の高さを変えることにより、空間にヒエラルキーを持たせながらリビングあるいはダイニングから、書斎、寝室、へと連続させています。その結果、各室の空間の広さと高さが適度に確保されながら、空間が緩やかに連続しながら分節し、さらに床の段差により大容量の収納も確保できている秀作です。

## 模型



## 図面



# 優秀賞

氏名: 勢旗 樹さん  
作品名: 『間』のある空間  
学校名: 大阪工業技術専門学校

## コンセプト

日本独特の感覚である「間」に着目した住戸。SNSが発達した今日、外にいても中にいても情報が溢れかえっていて何もない空間というのは失われている。したがって今計画では、何もない空白の空間を設ける事で新しい住戸が出来るように考えた。

今回は、壁で区切るのではなく柱を立て屋根をかける事で2つの空間を繋ぐ縁側のような「第3の空間」を作り「生活の場・生活/趣味の場・趣味の場」という3つの場を緩やかにつないだ。

## 模型



## 図面

**「間」のある空間**

日本独特の感覚である「間」に着目した住戸  
SNSが発達した今日、外にいても中にいても情報が溢れかえっていて何もない空間というのは失われている。  
したがって今計画では、何もない空白の空間を設ける事で新しい住戸ができるように考えた。  
今回は、壁で区切るのではなく柱を立て屋根をかける事で2つの空間を繋ぐ縁側のような「第3の空間」を作り「生活の場・生活/趣味の場・趣味の場」という3つの場を緩やかに繋いだ。  
この「第3の空間」は、それぞれの空間をいろんな角度から見ることができ、その中で自分の生活に新たな発見や豊かさ、楽しさを見出す余裕のある空白の空間になる。今回重要視したのは、曖昧な境界線を作る「柱」2つの空間を繋ぐ「縁側」忙しい生活に対して静かな何もない「空白」の空間など、日本人独特の感性・意匠を用いて新しい空間を目指し、計画して出来たのが間のある空間である。間【あい】(意味: すきま、絶え間、) 間【ま】(意味: 一続きの物事に生じた、途切れ) 間【あわい】(意味: 向かい合うものあいだ、また、その関係) といった様々な「間」のある空間となった。

Plan S=1/100

Diagram  
どこ場所にも機能が詰まっている今までの住戸  
黒の部分は生活する場や作業する場といった機能が入っている部分を表している。  
本当に何もない場所とは存在せず、必ず何かがあるのが現代の住戸である。

従来の計画  
今回の計画

柱が立ち屋根をかけた部分が「空白」の部分となり何もない空間を表している。  
この空間は2つの空間を繋ぐ中間領域であり機能を持つ空間の間【あい】である。  
空白の空間こそ現代の部屋における真に心休まる空間であると考えた。

PRIVATE SPACE HIGH  
PRIVATE SPACE LOW  
LIFE SPACE

玄関から奥に進むほど個人の空間が強くなっていく。しかし、壁ではなく柱を立てることでその空間を緩やかに繋いでおり、仕切らないことで奥行きを作り部屋全体を広く見せている。

# 優秀賞

氏名：後藤 駿弥さん  
 作品名：テーブルがつくる自由な空間  
 学校名：大阪建設専門学校

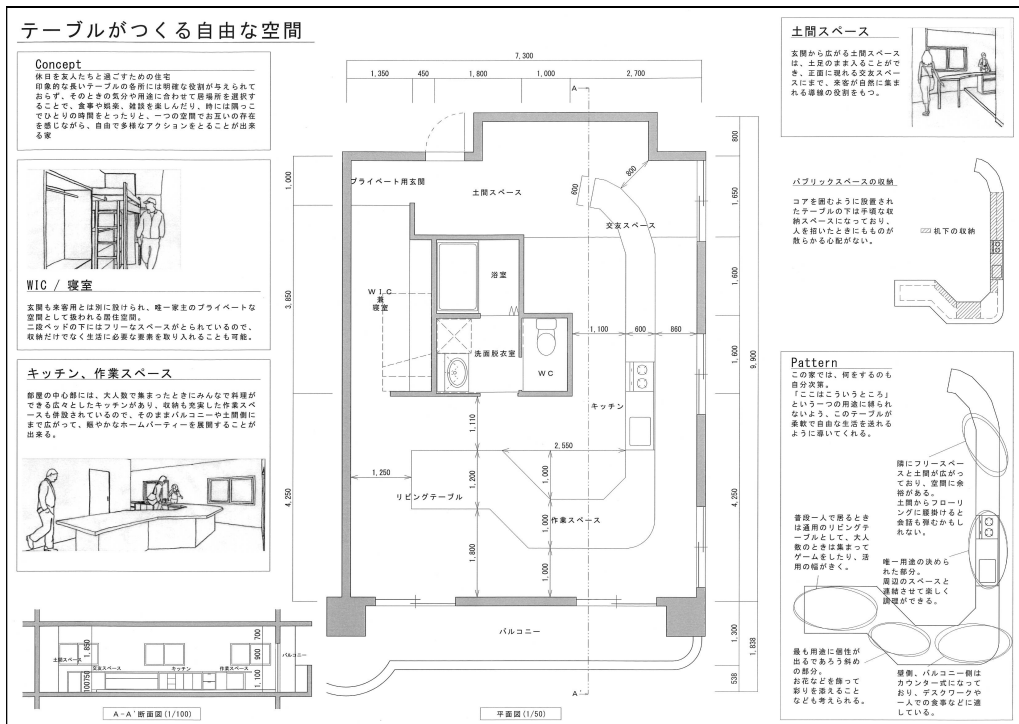
## コンセプト

休日を友人たちと過ごすための住宅。  
 印象的な長いテーブルの各所には明確な役割が与えられておらず、そのときの気分や用途に合わせて居場所を選択することで、食事や娯楽、雑談を楽しんだり、時には隅っこでひとりの時間をとったりと、一つの空間でお互いの存在を感じながら、自由に多様なアクションを取ることが出来る家。

## 模型



## 図面

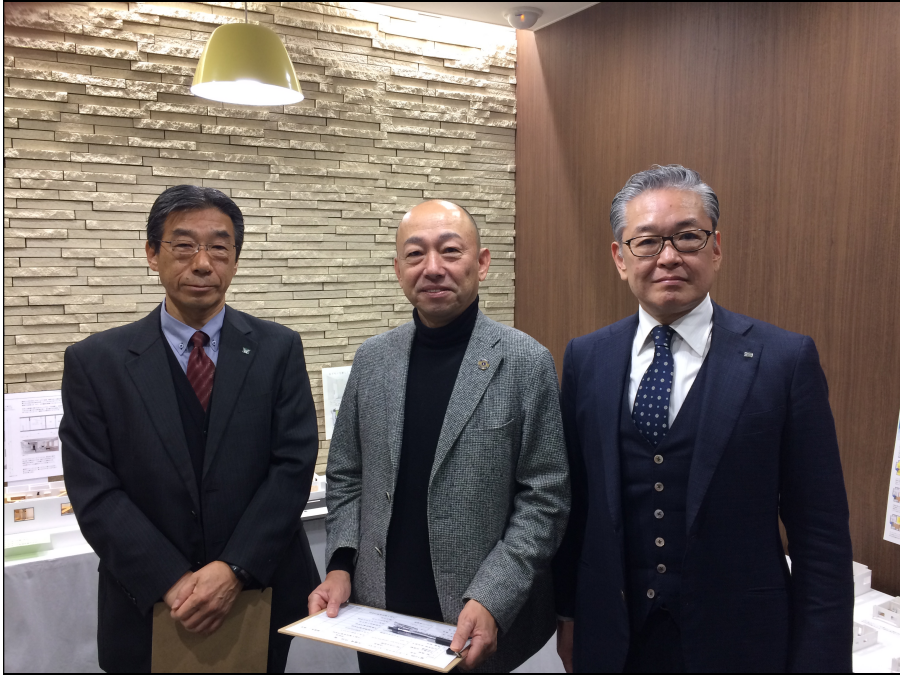


## 審査委員の紹介

委員長 西濱浩次(株式会社 コンパス建築工房)

委員 松本彰人(株式会社 松本空間工房)

委員 柏原成治(株式会社 松本組)



柏原委員 西濱委員長 松本委員

## 審査風景

